

熊谷も登った金華山は岐阜市の中央に位置する。ここに築かれた岐阜城は戦国時代、斎藤道三、織田信長の居城であった。手前は長良川で、鵜飼が行われることで広く知られる。



「みんなの森 ぎふメディアアコスモス」は写真のグローブが特徴的な市立中央図書館などからなる複合文化施設で、2015年7月にオープン。設計は建築家の伊東豊雄氏が担った。



映画館や多目的ホール、としま区民センターなどを備えた大規模複合施設「Hareza池袋」は今年7月に全体開業。岡崎乾二郎や三沢厚彦など現代作家の作品が施設内の随所を飾っている。



高野区長の都市構想には公園整備も含まれる。こちらは2016年4月にリニューアル・オープンした南池袋公園で、以降さらに池袋駅周辺の3つの公園が生まれ変わっている。

柴橋 最後に簡単なスケッチくらいしかできなかつたものの、亡くなる直前まで描いておりました。絵を描く、表現するということは、すごいエネルギーを人間に与えるんだな、と祖母を見ながら実感しました。

市川 熊谷先生も油絵は若い頃から描いていらしたんですねけれども、書や日本画に本格的に取り組みはじめたのは60歳ちかくになってからなのです。絶筆もじつは書だつたんです。高野区長も絵をお描きになるそうですね。

高野 いやいや、クレヨンで描いた落書きのようなものです。ただ、こういう仕事をしているとホッとする時間が必要なんですね。描いてみると、下生の言葉のなかには、金華山を登山したことや、長良川の忠節橋から舟で伊勢旅行に出かけたことなど、岐阜の地名が多く見られます。これらの地はいまま、どのような様子でしょうか?

市川 最近まで、当然ながら画伯が暮らしていた頃も、天守閣がある金華山の頂上が岐阜城だと考えられていたのですが、じつは金華山が丸ごと岐阜城だつたことが明らかになりつつあります。岐阜城は信長公の思想を反映するようなとてつもなくスケールの大きいお城だったのではないか。現在、積極

柴橋 最後は簡単なスケッチくらいしかできなかつたものの、亡くなる直前まで描いておりました。絵を描く、表現するということは、すごいエネルギーを人間に与えるんだな、と祖母を見ながら実感しました。

市川 熊谷先生も油絵は若い頃から描いていらしたんですねけれども、書や日本画に本格的に取り組みはじめたのは60歳ちかくになってからなのです。絶筆もじつは書だつたんです。高野区長も絵をお描きになるそうですね。

高野 いやいや、クレヨンで描いた落書きのようなものです。ただ、こういう仕事をしているとホッとする時間が必要なんですね。描いてみると、下生の言葉のなかには、金華山を登山したことや、長良川の忠節橋から舟で伊勢旅行に出かけたことなど、岐阜の地名が多く見られます。これらの地はいまま、どのような様子でしょうか?

市川 豊島区には、先ほどお話をあつたアトリエ村や、昭和を代表する漫画家の暮らした「トキワ荘」、豊島区立熊谷守一美術館など、芸術の歴史があります。そんな豊島区の「アートのいま」をお教えただけですか?

高野 アトリエ村があつて文化で盛り上がっていた時代があつたわけですが、空襲で区の7割が焼け野原になり、戦後は池袋駅周辺に闇市が立つようになりました。そういうた、生きるためのものすごいエネルギーが池袋のまちを

Morikazu Kumagai

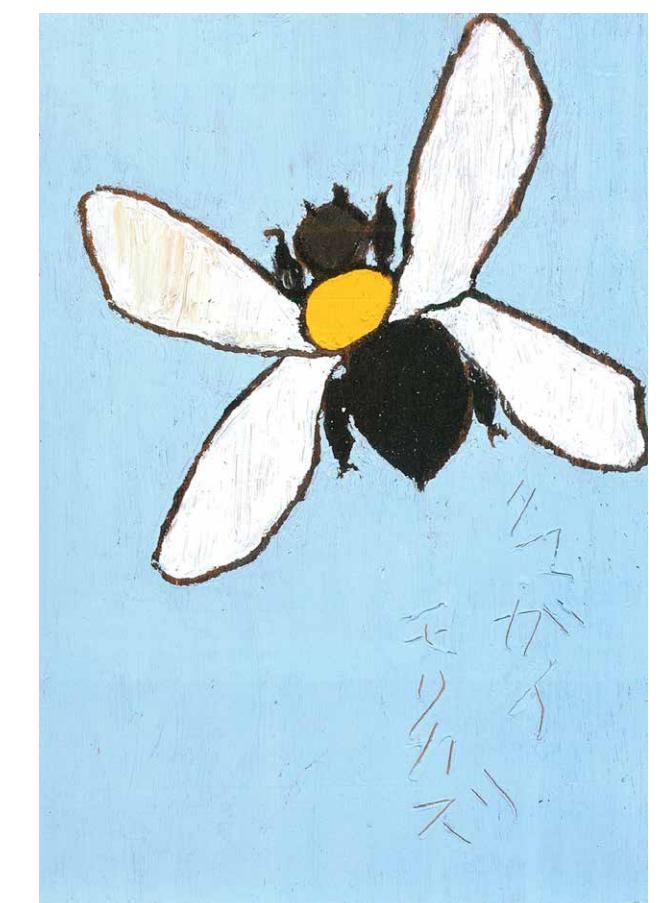
戦いで岐阜城は落城し、江戸時代は、まの岐阜市の中心部が尾張藩となつたため、中世の街並みがそのまま残つて、こんなにちの都市形成につながつてきて、珍しいタイプの地方都市ではないかなと思っています。

市川 そんな熊谷先生ゆかりの両都市ですが、おふたりは作品についてはどんな印象をお持ちでしょうか?

高野 政治の世界に入る以前、私は古本屋を経営していたこともあり、熊谷さんの作品も美術書をとおして知りました。単純化された描写で親しみを感じさせるけれど、深みがある、誰もが引き込まれるような絵画だと思います。その熊谷さんがこの豊島区で暮らしていることを誇らしく思いました。私にとって熊谷さんは、豊島区における文化の中心的な存在です。二女の樋さん(下右)を建てられ、二十数年間しっかり守つてくださったのち、平成19年(2007)、豊島区に守一作品をご寄贈いただき、同年区立美術館になりました。

市川 96歳とはご長命ですね。

柴橋 岐阜市では5つ作品を所蔵しております。熊谷画伯が孫六郎さんを描いた『父の像』(119頁下)、林間に朝の光がさす風景を描いた『朝日』、そして市長応接室にいつも飾っている『岐阜』と揮毫された書。また岐阜市歴史博物館には『海』、その分館である加藤栄三・東一記念美術館には『鶴』があります。なんといっても岐阜は長良川の鵜飼がありまし、加藤栄三先生、東一先生も熊谷画伯と同じく岐阜市ゆかりの画家です。私自身が初めて画伯の絵に出会ったのは、衆議院議員に初当選した平成21年(2009)の夏でした。『桜』という作品です。じつは96歳で亡くなつた私の祖母が、60の手習いで油絵を描いておりました。モティーフはいつも浜木綿で、あの白い花の純真さを自身に重ね合わせ、純真な自分でありたいという気持ちで描き続けています。絵画といえは純真、という私の原体験にびたつとはまつたことがすごく印象に残っています。



上／おしゃれをしてポーズをとる7歳頃の熊谷。1887年頃。この前年の4月、岐阜県尋常小学校に入学している。岐阜県歴史資料館蔵

*注「熊谷守一のアトリエにあったもの展」には出品されません。

下／熊谷が97歳で亡くなるまで暮らした豊島区の住居跡には「豊島区立 熊谷守一美術館」が建っている。1985年に熊谷の二女・樋さんが私設美術館として設立したのち、2007年に作品を寄贈。同年区立となる。樋さんは現在も館長を務めている。

公式サイト kumagai-morikazu.jp

左／庭の植物や虫をモティーフにすることが多かった熊谷晩年の作品で、「豊島区立 熊谷守一美術館」の外壁上部を飾っている絵の原画でもある。《熊蜂》 1972年 油彩、板 22.7×15.8cm

*注「熊谷守一のアトリエにあったもの展」には出品されません。



Morikazu Kumagai



いちかわ・えいこ

キュレーター、1919年創業の「柳ヶ瀬画廊」の取締役。2019年、熊谷守一の研究機関「長良文庫」開設。2017年に開催された「メディアコスモス新春美術館」没後40年「熊谷守一展」の実行委員を務めた。

作り上げていく一方、その間、文化への関心は低くなつていきました。文化は夢、希望を与えるものだと思っておりますが、財政的に厳しいと、文化振興は行政のなかでも後回しになつてしまします。私が区長になつた時は、3000人いた職員のうち、文化担当はたつた2人、しかも1人は兼務でした。それが現在は、2000人の職員のうち100人が文化担当です。ようやく財政が安定してきて、国際アート・カルチャー都市を目指す、という将来像に向かって進んでいるところであります。たとえば旧庁舎の跡地に「ハレザ池袋」[121頁上右]が誕生したり、駅周辺の公園を活用して野外劇場を作つたり。まちを回遊しながらアートス

トアートを楽しむ「池袋モンパルナス回遊美術館」は今年で15回目になります。そして、さまざまプロジェクトのひとつに「トキワ荘」の再現もあります(38頁参照)。漫画はいまや世界共通の文化になつています。その文化を伝えていくだけではなく、まちの特色を出していくという意味でも、「トキワ荘」再現は非常に意義があることだと思っています。

市川 岐阜市でも熊谷先生にゆかりの深いエリアで新展開が見られますね。

柴橋 伊東豊雄先生の設計による「みんなの森ぎふメディアコスモス」[121頁下左]が5年前にオープンしました。図書館と市民活動交流センターが入る施設です。来年、このすぐそばに新たな岐阜市庁舎が完成します。知、絆、文化の拠点となるぎふメディアコスモスを有効活用し、古くからの文化芸術集積エリアである岐阜公園周辺、商店街がある柳ヶ瀬地区、再開発が進むJR岐阜駅一帯、さらに市内各地域をつないでいくというチャレンジをいまさにやろうと企画中です。ぎふメディアコスモスがある司町の隣は熊谷伯が住まいだった佐久間町。この町名は、地元の名士だった佐々木氏の「サ」、熊谷孫六郎先生の「クマ」をとつて命名されたものです。

また、柳ヶ瀬はいまリノベーションによるまちづくりに取り組んでおりま

すが、豊島区で活動している青木純さんが、豊島区で活動している青木純さんを架け橋に、お互いの良いところを勉強しながらまちを発展させていくことがあります。豊島区が取り組んでこれらが、青木さんを通じて岐阜の若者たちに伝わり、彼らがまちを元気にしている。昨年度からヤナガセ・バークラインというイベントを開催するなどして盛り上がっています。行政においても、豊島区の公園を生かしたまちづくりを参考にさせていただいております。柳ヶ瀬エリアに隣接して「金公園」があるのですが、人びとが集う岐阜市の「センター・パーク」として2022年度のリニューアルを目指し、再整備を進めています。

高野 青木純さんはとてもエネルギッシュな活動をされていて、南池袋公園[121頁下右]のリニューアルにもご尽力いただきました。かつて、この公園は治安が悪く人が寄り付かなかつたのですが、今までは区民の憩いの場です。さらに先月、造幣局跡地に池袋最大級となる公園「イケ・サン・パーク」がオープンし、隣には「としまキッズパーク」も。公園を中心にもまちをつくり、文化を取り入れながらまちを変えていきたい。文化は未来をつくり、平和を築いていきます。その心の豊かさをはじめ、賑わいをつくるのもやつぱり文化ですね。文化のあるところには必ず、賑わいが生まれます。

豊島区ではまもなく熊谷守一さんの

熊谷守一生誕140年記念 熊谷守一のアトリエにあったもの展

10月27日~11月1日(会期中無休)
自由学園明日館 別棟 講堂

藤森武による熊谷守一の写真や、熊谷の遺品などが出品され、画家の創作の背景に触れる。

住所 ■ 東京都豊島区西池袋2-31-3
電話 ■ 03-3971-7535
時間 ■ 10:00~17:00(講堂のみ)
料金 ■ 無料(建物見学は別途有料)
アクセス ■ JR池袋駅メトロポリタン口より徒歩5分、JR自由駅より徒歩7分
自由学園明日館HP ■ jiyu.jp



展覧会案内

展覧会が開かれます。アトリエで使つていたものを紹介する内容です。熊谷さんを架け橋に、お互いの良いところを勉強しながらまちを発展させていくのですね。柴橋さんが仰ったように、若者同士の交流も活発化させたい。

柴橋 2021年の開催を視野に、岐阜市でも熊谷守一展を企画中です。両都市を結ぶ入口は熊谷画伯で、まちづくりでも連携していけば、未だにつながる持続可能な都市になつたいですね。柴橋さんが仰ったように、